

横浜市立金沢動物園で ニホンライチョウの導入が決定しました

金沢動物園では、(公社)日本動物園水族館協会が行うライチョウ生息域外保全実施計画に基づき、国の特別天然記念物及び国内希少野生動植物種に指定されているニホンライチョウを導入することが決定しました。今回はライチョウ生息域外保全実施計画の体制強化と危険分散、普及啓発を目的として、金沢動物園へ成鳥のオス1羽、メス1羽が移動します。

今後、飼育施設の改修を行い、ニホンライチョウ導入時期を決定します。



野生のニホンライチョウ

ニホンライチョウの生息域外保全は、平成27年に環境省と(公社)日本動物園水族館協会の協力のもと開始しました。現在国内の7園館において、飼育・繁殖の知見の集積が行われています。令和4年には、国内の動物園生まれの個体を生息地へ放鳥することに成功し、令和5年には動物園からの野生復帰個体での繁殖が確認されました。

金沢動物園では、平成27年からニホンライチョウに近縁のスバルバルライチョウの飼育を開始しており、令和5年に環境省による希少種保全動物園等に認定されました。

金沢動物園



指定管理者：(公財)横浜市緑の協会



お問合せ先

金沢動物園 園長 小國 徹 TEL045-783-9400

【参考資料】

1 ニホンライチョウについて

和名	ニホンライチョウ
英名	Japanese Rock Ptarmigan
学名	<i>Lagopus muta japonica</i>
分類	キジ目 キジ科
分布	高山帯に隔離分布しており、現在の分布域は頸城山塊、北アルプス、乗鞍岳、御嶽山、南アルプス
生態	本州中部の高山帯に生息するライチョウの亜種。ライチョウの亜種の中では最も南に分布しており、氷河期に日本まで分布を広げたライチョウの祖先が、その後の温暖化とともに気温の低い高山に生息の場を移して、現在まで生き残ってきたものと考えられている。 日本の高山の環境によく適応し、高山植物の芽や葉、種子などを食べ、ハイマツの下に巣を作って繁殖する。
環境省レッドリスト	絶滅危惧 I B 類 (EN) 絶滅危惧 I A 類 (CR) ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高い種
国内飼育園館	7 園館 富山市ファミリーパーク、恩賜上野動物園、大町山岳博物館、那須どうぶつ王国、いしかわ動物園、長野市茶臼山動物園、横浜市繁殖センター（動物は非展示）

2 金沢動物園について

- ◆入園料：一般 500 円、高校生・中人 300 円、小・中学生 200 円、小学生未満無料
(毎週土曜日高校生以下無料)
※よこはま動物園・金沢動物園共通年間パスポート 18 歳以上 2,000 円
- ◆開園時間：9:30～16:30 (入園は 16:00 まで)
- ◆休園日：毎週月曜日 (祝日の場合は翌日)、12/29～1/1
- ◆交通：京急線「金沢文庫」駅下車、西口バス乗場でバスに乗車
①「野村住宅センター」行きバス「夏山坂上」下車徒歩 6 分
②急行「金沢動物園」行きバスで 10 分 (土・日・祝のみ)
- ◆URL：<https://www.hama-midorinokyokai.or.jp/zoo/kanazawa/>
- ◆住所：横浜市金沢区釜利谷東 5-15-1
- ◆問合せ先：045-783-9100